



丙辰紀行

武苑野

道春

名よおよびむら野き月乃入るさ山とけしといへ  
 海とけしうくろくの茶蔭蔭すそそ又茶蔭あり此國  
 乃稿毛葛西越谷岩坑の越鴻巢思ふとも清世さ  
 野の内いして休教ははまこと法獵場ふれとも毎手養  
 あり勢給ふ

國野同名稱武藏尋常旅客宿春糧兩餘草色連天地  
 郊外雲烟没邑莊富士雪遙花稍小筑波陰茂薺猶長  
 殘星點々夜鼓火微月纖々照射光共往島荒多幾許  
 齊飛鳥鷹百千行豫遊兼習驅馳範養放皆知鷹鷲方

雲夢青丘俱芥蒂。子鹿鳥有本。荒唐班鳩入網。風前霰  
白鵠糞黏泥。上霜暴虎何曾逢。太叔非熊庶幾載。師望  
藪蔬任見宜。應採耕穡於時亦不妨。仁愛只今單物處。  
豈論五柞與長楊。幸逢四海為家日。處處風烟似故鄉。  
春風よまよむむいそる若草乃のみや鹿よほむむ此

涉草

家に寺ありとよむ此觀音海まよとて人の多と  
余信もやりまけん。大古乃日人入りさそれ余と  
さうりまおけあとの子屋に男女乃群集すらる。  
糸の清きよりもればくもきおむし。此にりり  
牛鬼乃出てけいりりまうる。はむらうを屬おもひ

まよ。馬より大古乃此現ふれ何とて牛の出きおと  
れうかりし。爰れ報多流志於人ありまれん。志り  
まよりてやとておつり也

法威能救衆生。夏小白華山彼岸舟。若把馬郎令渡水。  
應向海底有泥牛

神田

此社も平親王の屍骸。河うげかし。取よとて。其靈  
尸は。おれと。か。利つ。人。ゆる

昔聞鉄額。是虫尤何事。將門廻逆謀。草木山川無寸土。  
一堆埋骨幾春秋

愛宕

いし中一乃時小京新愛若河遠江國あはこ坂  
に勃發トクハツ。それら後河國うは乃全にうつ。又武  
菟園より行てゆりし。是は後軍地菟乃はむね  
とゆとそ。とに武士の崇敬する故は娘のまのあは  
かありありし。河野はりのひらきて。今も大慶  
なりぬ

京洛移遷坐武州ニキツキ。藝壇構閣陟山ニツツ。誰知幣帛神封物  
却作沙門活命ニツツ謀ニツツ

増上寺

髻鬢給孤園飛塵倒大閉遠公名已久善導法猶存悲  
願雖扶女哀鳴屢ニツツ。猿始知蓮社内更有國師尊余入寺時

庭前  
有猿

隅田川

都鳥ミヤコトリ。南田スミタ。乃物ふれは好々人とりてあはれ  
てゆり。河乃好々。海とひらりと河とあはれ。略  
の大きき。河。此鳥輪を好々。とて。今も好々あり  
漾々溶々。一葉身。河邊秋景只恨春。自從在五詠歌後  
流水飛禽愁殺人ニツツ

金沢

金澤乃絶景。東列の佳境。とて。好々。丹ニツツ。喜ニツツ。此  
多。河。ありて。扇。風。小。う。は。り。市。杵。鴻。立。橋。立。小。も。以  
か。て。う。お。と。あ。へ。さ。き。き。と。と。て。水。あ。り。小。條。氏。天。下。小

権臣とふ所の文庫を建て金沢文庫とて其の  
 多海儒書に書置けり。佛經の朱下注つ  
 ておとせんおとれ越後守平貞顯ころ所て法原教  
 隆の群書治要法讀抄の類余らん所り一は文  
 選法原師光の法傳教隆の群書治要齊民要術律  
 令義解本紀文粹續本紀文粹續日本紀あるの  
 其外人家よりありき類と一部と調ふ類は  
 あり一切類と取ほして總残のとて今に金沢に  
 あり右記典籍乃厄は遠くよりいへりわとにいふ  
 まていくといひいふは志しん蘇我氏乱れ我  
 乃一秦とて申へき宅嗣の芸事の名はよき

久き治乃寶苑蓮華寺院乃寶苑寺とて記さ  
 るあり。誠は祝辭いふとられ湯候はたけり  
 みまゝの兵變より治の馬蹄りぬを教ふ類か  
 あらん人せり。をたりの出さるんやされん  
 一は先聖先師九哲乃影六種の注疏は海は是利  
 にあり小點は東園へ西より書對り。是利は讀  
 書乃堂は治より。今に抄りてあ類は是を  
 とれん余とすりてらん心とのとあり  
 て月日すりぬ  
 懐古淚痕羈旅情。腐儒早晚起蒼生。人亡書紙幾回歲  
 境致空留金澤名

鎌倉

鎌倉のふるまひのあはれなる人ありき  
頼朝乃墓とて。そのまへに鴨乃長明の墓も本  
とすひまき。秋乃霜きてて。せいのほろひて  
満目鎌倉城郭亡。雲烟漠々樹蒼々。道遙昔聽遊龜谷  
報賽今無詣鶴岡。草偃匣中三尺水。苔深墓上五更霜  
君公不識包菜計。千載英雄淚濕裳。

江鴻

友沢より馬は海より。海濱ちりき。取きて漁父乃  
舟成かり江鴻は波りて。たれかあつこの海は春  
乃下に大舟は夜寒。ありけい。相伝もも。志くありく

へかとは百歩ありて。やみぬ。龍神乃  
擲す。取ると。あひひ。傳り。乃鴻の舟。好天女。世は  
か。れ。あ。ま。さ。り。り。  
借問嶋中人。不知此孰神。蛇と遺跡在。君其問水濱。  
江嶋從來神女居。風髮霧鬢駕雲輿。遊人若有登仙意。  
水宿應傳柳毅書。

大磯

此取は角我十部。う。妾虎う。向跡ありと。て。二乃石紙  
人と阿は。は。ら。み。く。と。く。け。あ。く。く。あ。と。り。て。  
む。う。う。り。虎。石。と。名。流。を。今。に。あり。

十郎慷慨愛於菟血氣武人犀甲軀妾婦當時指星香  
陰成此石似望夫

箱板

永仁四年に此山乃鐘匠法で鋳けりし一其序  
小當山蓋山嶽之神秀者也。孝謙皇帝御宇天平癸  
字年中萬卷上人草創擇地三取權現松場並靈  
とつり中比美上せり。小條氏再興して十二別乃  
鎮守とし山上は湖あり神靈乃すし取ありとて  
いふへららのほろをたされて今にへらと依りす  
舟儀うかへぬあつらひりくすへありとあんは別當  
乃かたりい仙人四代この山は住り約形乃深秘とあ

程の役小南も爰にありて其跡は乃く一然跡控  
現と此神と一体とてありはすなりと云ふ  
ありと申さ

長坂脩途不可攀惟天設險甲東関頭木末待吾僕  
信足湖邊濯容顏鯨背浪高伊豆嶋馬蹄雲起莒根山  
相逢盡道歸耕事歳々年々幾往還

走湯山

走湯山は伊豆乃山のものでゆる爰にありゆと神と  
走湯権現と云ふも昔鎌倉右大将伊豆箱板と  
信し。昔に藤原乃礼を以て給ふ。二取と云ふは

一 新志是あり世とあらよお湯あり石らう一 熱瀑の  
とらう。之湯乃名之温湯よりしての故也。又一里斗  
西に温泉あり。これ西に熱湯と名はる。このより  
乃痛あり。この湯すれ。と。熱あり。余も人より  
うれて湯よ入。其湯は。其湯は。潮乃進。染  
し。わて。岩は。間ら。烟む。一。ある。て。人の。道は。く。へ  
く。と。あ。わ。ぬ。や。と。阿。は。ま。の。熱。湯。よ。き。出。く。海。道。に  
海。を。登。り。行。ひ。て。あ。く。は。ら。の。橋。は。湛。て。人。く。よ。入  
せまら

絶境靈蹤 且古今尋名吾輩亦登臨 走湯權現救人處  
便是驪山神女心

三嶋

伊豆乃三嶋母。伊豫乃國。わうは。て。大山祇神  
と。い。ひ。ま。た。つ。ら。や。相。國。乃。御。前。に。て。三。嶋。と。富。土  
と。の。父。子。此。神。あり。と。世。久。一。を。い。ひ。傳。へ。ら。と。ゆ。は。あ  
り。と。い。へ。と。て。ま。き。富。土。乃。大。神。と。い。は。本。花。岡。耶。那。と。定  
り。は。日。中。紀。乃。と。路。少。と。か。あ。ひ。や。今。ま。り。竹。取。物  
と。い。は。や。ん。に。い。つ。た。か。く。や。娘。を。後。の。代。乃。ま。り。て。や。ゆ  
ら。ん。凡。三。嶋。と。い。つ。ら。縁。別。持。別。乃。國。と。三。和。よ。あ。く  
と。い。は。し。ゆ。ら。の。神。名。帳。小。あり。と。ま。り。ゆ。は  
祭。儀。如。在。幾。千。年。青。幣。相。連。引。白。綿。天。下。神。明。垂。跡。處。  
流行似得地中泉



輕小嶋

平治乃乱、兵衛佐源頼朝、乃取、海、なれて、廿余年、  
此間、仇を報むる、海、なれて、治、兼、壽、永、の、比、兵、  
た、平、氏、を、攻、滅、一、安、德、帝、福、原、と、落、せ、給、ひ、  
て、西、國、と、て、せ、給、ひ、る、は、思、出、と、

包羞忍耻、尤、迂、身、養、虎、遺、患、只、此、人、吹、起、多、年、東、國、燼、  
福原城、關、作、烟、塵、

大嶋

海ありとて、その世へうつり、後、優、婆、塞、う、鬼、祓、と、つ、ひ、  
し、を、廣、足、う、後、な、し、り、て、海、な、れ、か、あ、り、と、て、その、ひ、  
く、す、鎮、西、乃、八、郎、り、大、島、を、ひ、く、と、鎮、西、乃、り、と、

て、う、海、な、れ、世、海、は、休、ま、り、仲、小、河、り、て、大、嶋、と、な、  
け、り、下、り、風、浪、乃、と、り、ま、れ、ま、り、と、遷、客、投、荒、の、取、  
と、し、近、江、仙、洞、の、松、庵、ま、り、海、な、り、り、時、宮、女、れ、和、  
女、乃、罪、よ、り、り、て、幽、閉、一、死、生、給、よ、る、と、お、り、天、  
氣、三、つ、り、に、あ、り、一、海、大、相、國、寛、仁、心、ま、り、し、と、志、  
う、り、音、ら、れ、て、あ、ま、り、宮、女、は、あ、り、海、な、り、り、  
新、嶋、と、し、世、海、な、り、あ、り、は、松、浦、佐、用、権、う、玉、嶋、山、よ、り、  
於、る、と、海、海、乃、淡、路、の、武、嶋、よ、り、給、ひ、と、が、く、や、  
ら、ん、と、人、々、い、い、あ、り、  
過、く、南、海、濱、舉、目、不、知、津、小、角、來、驅、鬼、八、郎、謫、化、神、キ、  
人、畜、獸、類、風、俗、混、魚、鱗、寄、語、一、魚、豊、天、涯、奈、汝、身、

富士沼

相國乃活前して。平家物語のまればあり。一に平氏鳥  
乃羽着に舞て。おしるる。一に富士沼乃まに。今之善  
徳寺を其取ら。女友別當。東國小精兵乃多。さ  
をからる。一に。平家之兵。も臆病神のほきて。  
かくの。とある。と。ほさ。活前。は。け。某。を。侍。覧  
して。辯。士。一。て。敵。乃。善。を。懐。一。世。の。あ。れ。と  
兵。は。よ。い。つ。所。い。是。ら。り。と。保。ま。ぬ。も。只。今。乃。相。よ。平  
音。耳。に。と。ま。る。て。さ。り。休。り

鬪國中分源與平。東方氣勢盡豪英。何須禱八公山上。  
某是旌旗木是兵。

富士山

富士山乃名。い。ら。我。紹。鳴。のみ。さ。く。遠。く。中華。ま。て  
ま。こ。ゆ。赤。人。の。教。を。萬。葉。の。勢。都。良。香。の。記。の。文。粹。よ  
ん。て。徐。福。藥。を。一。つ。の。て。こ。乃。山。小。と。ま。り。是。と  
蓬萊山。と。名。は。ら。は。る。を。義。楚。の。帖。小。あ。り。六。月  
雪花。鬱。素。素。何。所。深。林。不。見。百。鷗。と。一。つ。の。を。宋。濂。の。曲。よ  
あ。ら。や。加。之。羽。客。釋。流。乃。此。山。の。跡。と。あ。す。り。之。後  
夷。士。と。り。一。つ。の。て。禁。濟。一。つ。の。と。事。空。海。圓。珍。岩。石  
を。ま。さ。さ。み。く。の。仙。軀。成。彫。と。れ。山。上。ま。れ。け。る。と。白。衣  
天。女。乃。形。成。あ。り。一。つ。の。浅。間。大。社。乃。治。と。重。の。一。つ。の。ま。ん  
被。り。一。つ。の。每。双。乃。名。山。ま。り。近。代。禁。林。の。詩。僧。と。乃

山を登せし中に。富士千仞。聖嶽。幾度思登。病未能送。  
汝錫飛三伏裏。歸來分我一壺水。いつれ信義堂。あ  
る。大地撮來無寸土。當空還見此山成。海濶綫浸半邊。  
影多少。漁舟載雪行。いつれ乾峯。いつれ絶頂。雪殘春  
夏秋暮烟。一抹畫眉脩。吾疑上有望夫石。不爾閑愁獨  
白頭。いつれ岩惟肖。いつれ六月雲間積雪新。東遊未  
踏玉隣岫。画師今有移山力。一洗京鹿困暑人。いつれ予  
多。燿瑞岩也。富士峯高。宇宙間。崔嵬豈獨冠。東関唯應  
白日青天好。雪裡看山不識山。いつれ彦希世。いつれ  
富士耳。聞身未遊。畫圖相對與悠々。東関千里吟鞍上。  
晴雪趁人三五洲。いつれ沅南江。いつれ五須彌。外有須

彌。呼作士峯。吁是誰。六月雪飛寒徹骨。壁開芥子欲藏  
之。いつれ澤天隱。いつれ其言北闕。隔東関。富士朝々  
如對顔。四海一家皆帝力。千秋白雪御前山。いつれ  
三横川。いつれ士峯秀出海之東。名在景瀨詩句中。若把  
百鷗論白雪。扶桑六十一。雕籠。いつれ八九萬里。いつれ  
天台四萬八千丈。若在吾邦。立下風。いつれ瑾雪嶺  
あり。工拙。いつれ具眼。いつれの知る。いつれ書。いつれへて。いつれ  
ふあり。其外。幾人。墨客。乃詠。いつれ勢。いつれあ。いつれ  
さ。いつれや。いつれ此。いつれ人。乃地。いつれは。いつれと。青天忽見素羅笠。擔中  
十五別。いつれ白。いつれを。いつれさ。いつれん。いつれへ。いつれさ。いつれめ。いつれ  
乃今更。いつれ以。いつれひ。いつれか。いつれび。いつれさ。いつれん。いつれの。いつれ延。いつれと。いつれ紙。いつれて。いつれ事。いつれあ。いつれし

まやうまれのさうわとくはんはくんとを懶墮乃たそれ  
あはれし聊やほむ多ゆるかの不與浮雲齊といふ  
いふはれしや巖空大始雪とあはれは雪もや衆山之刻  
施すれしやほむ世山よ此かつてのりはや天下  
すくすくはあすくくをあはれへたや蓮花の早く  
空洞ハ薄といふはとび山一対して乃るにや  
下山高出衆峯巔炎裡雪氷雲上烟太古若同仁者樂  
蓬萊何必覓神仙

富士川

我國は名はけしは大海とあまのこはまといふに富  
土川と海道第一乃急流なり舟に乘て渡はし  
くもちくはけして半をさく増はれしは  
峯くつたはれはあまのこはまといふに  
乃人をもくはれは魂乃消る公地り志事  
往來停馬此踟躕天下消々豈獨吾河畔為通名利路  
涪陵慙愧一樵夫

薩埵山

尊氏直義中河くちりてびあはて合戦ありし  
をれりひあく  
弟兄争國亂如麻萬馬奔馳薩埵涯一樹東西枝指後  
海山風雨棘棠花

奥津

奥津多。多胡乃浦の事にて伝るべし。湯舟より薩埵  
を過。多いにいふ所より。海濱鹵任の地より。小民賤女  
此塩焼志わく。海に舟よ。若社より。汲井。歳措く。出車。日  
連々といふ。るき。げふ。おる。にも。盤中乃。食の。皆。辛。苦  
を。承。事。と。た。ひ。あ。く。せ。ら。れ。く。い。ふ。く。り。の。く。せ。き。  
くしんへん

軍々海畔岬。鹵裡若煎烹。昔汲孔明并。今調博説義。  
清見関

延曆乃以。奥列の逆賊高丸。後河國中へてせめへ。乃関  
陣をとり。一坂上將軍打破。高丸奥へ逃退。一  
久之。其語。と。い。ふ。く。い。ふ。所。は。寺。あり。京。の。東。

日山乃尔。長老の弟子阿聖。此寺にひく。其。漢。凡。寺。に。分  
け。き。又。き。巨。鰲。と。い。ふ。り。近。比。妙。慈。寺。に。属。す。所。や。う。に  
史。に。伝。る。

經歷巨敖龜山。入門心自閑。禪徒今住寺。寇賊昔攻関。三  
保窓櫺裏。大洋机案間。起鞭征馬去。斜日照入顔。

三保

此所。浦。中。の。明。神。の。神。籍。の。す。所。乃。養。種。神。社  
是。ら。り。羽。衣。乃。松。と。い。ふ。り。夫。ら。し。女。の。さ。り。て。松  
原。に。羽。衣。を。す。け。を。漁。又。は。ひ。ら。も。得。し。所。は。洗  
社。乃。文。よ。る。や。ら。ん。と。い。ふ。り。の。か。の。能。因。は。所。の  
有。度。濱。よ。天。乃。羽。衣。せ。ら。り。ま。て。と。い。ふ。所。は。い。ふ。れ。た。所。

あり。之保きて後河國有度なり。河まをあり  
綽約氷肌神女容聞名自古問遺蹤。漁人洗耳是何曲  
仙袂飄々風入松

久能山

こ乃山の状は、河上流岸孤絶乃所にて、観音老人堅  
坐の地を、補陀洛山とも申す。一里あり。東に  
寺あり。之能寺と名はく。聖一國師、藁科の産りて  
こ乃寺に、竟舟法師と師り。台教を、学ひり。入宋の  
後、達磨宗を、しけりて。東福寺乃第一祖。母の、人、  
巨久能乃、尔長老とて稱す。宋より渡り、こ乃  
駕瑞の羯鼓を、しけり。又源、藤、別と、落、墨と

いつれ、横濱、河、寄進を、れり。河、流、も、池、奥、の、狹、り、せ  
け、所、と、あり。寺、僧、乃、書、を、を、し、けり。勅、進、帳、乃、あり、け  
り。河、乃、河、乃、に、河、く、が、く、む、わ、り、を、し、けり。其、外、推、古  
天皇乃、時、草、剣、せり。ま、り、河、ま、と。大、や、う、疑、も、し、けり。  
り、く、公、を、と、久、す。ま、り、を、し、けり。

遠尋幽寺到斜陽。過客居僧談。兩忘身。是此山清淨色。  
何求無垢在南方。

久能宮

寂然長隱久能宮。明德惟馨神國風。億兆小臣望不及。  
帝鄉路遠白雲中。

何圖忽輟國中春。哀慕憑誰寫御容。臣妾叩頭將伏拜。

雲車高駕鼎湖龍

駿河文庫

餘烈遠遺賢聖風能令術業有專攻誰言馬上治天下  
只聽爐前讀雪中寒水月明千歲意日星道行六經功  
請君更勿問他事人是儒門五尺童

狐崎

源頼家乃梶原平三景時を誅せんときを以て正  
治二年正月梶原相模國一宮に逃出く。後河清天皇  
よふ河杉原の場よりかたりしを頼家甲乙人たりあひく  
あやしくおひひ矢に射しけ違きしを梶原狐崎  
てせし合せ。蘆原小次郎飯田五郎吉香小次郎とあひ

我て景茂之れね國內乃兵ともあつまる。表あれく  
景國景宗景則景連と死ぬ景時景季景高きこし  
後乃山よりいれを山中より其首伐さうし出て  
道路より影よりあれ梶原を毎にありとて武勇乃  
近習ありし。延尉乃る。後景にあしとせし。あ  
何れの子といふ事あり

源君兄弟本連枝何事一朝恩愛衰猶有讒人遺識在  
不投材虎死狐崎

浅間

和欵志豆機山よりあはれき。是るをいふ。醍醐  
帝乃対富士本宮御妻に逢して。新交をいふ。か

乘真時々誼淺間。黄昏唯見一僧還。風光應是灵神愛。前有清流後有山。

臨濟寺

蘭若隔林隣。府闔遊人眼裡對。孱顏立談不及世間事。亦是浮生半日閑。

建德寺

此寺多古蹟。役行者乃草創之。やうにいひつゝ人より。中比らり密教乃者移りおて今にいはゆるまてなり。此地元來法界宮。水雲心性似虚空。吟眸所及不知暮。石徑霜深古寺楓。

八幡

此非乃密跡國々にあり。とにいらし居きまて。宇佐宮。崎男山。譽田。鶴岡。これ外とわまき。おほけ。以後河國。勅使一者。おほけの時のり。あつるやうん。此秋河内乃譽田。此縁起。社傳江戸持下。一在見付。此神功皇后乃縁起。二卷。譽田。此宗廟乃縁起。三卷。永享年中。善廣院。寄進せられた。五巻。ととに。土佐。う。縁起にて。宗廟乃三巻。い。善廣院。親筆に。事書。を。う。は。これ。ま。る。と。唯。今。哀。此。八幡。を。ま。て。か。の。縁。起。乃。る。紙。思。ひ。い。し。聊。志。新。傳。る。

無方變化本非恒。五彩靈鳩金色鷹。神不惑人人却惑。





山中回首費吟呻。遺愛萬楓秋又春。今古冥々名與境。  
業平詩後更無人。

大井川

大堰河ハ後ハ遠江トシテ境ヲ明カクシテ  
霖雨トシテ溪澗ハハふるりしくるれ。東の山は  
峯谷深き。嶋田乃釋河系の中にあつる。とあり。  
西乃江に深き。金谷の宗もふ事とあり。一も他の  
大堰とらわて。大木沙石深き。ふるりしくるれ。あま  
乃枝深きとらわて。一里のう間小わつふる事。あり。  
まね、ふへ。と徒松輿梁。とらわつ。はし。は。業  
乃人馬川の深き。とらわつ。金谷に深き。あり。嶋田に

とくも。ふ。とあり。わ。る。か。わ。て。れ。が。ゆ。く。者。も。あ。り。  
幸。得。て。む。ら。い。乃。者。も。ふ。も。ゆ。り。嶋。田。乃。民。ど。の  
う。家。い。と。く。い。深。き。れ。も。旅。客。の。囊。袋。も。し。う。か。る  
い。小。洪。あ。ま。し。う。深。き。ふ。賣。炭。翁。の。草。衣。に。て。年  
の。暮。れ。を。待。つ。こ。と。う。河。水。は。深。き。あり。田。を。よ。う。こ  
ま。ふ。い。は。防。鴨。河。使。防。葛。野。河。使。と。ま。ら。け。む。う  
の。も。も。唯。今。た。い。し。出。さ。ら。ん。や  
尋。常。揭。厲。必。過。腰。比。馬。呼。奴。魂。欲。銷。來。往。就。中。何。處。苦  
無。舟。無。筏。復。無。橋

小夜中山

委位法師のちあわさる作歌の中山と稱す

にて乃るるなり

坂道外降是早天夢殘馬上不成眠此山無限西行壽  
能使詠歌千古傳

西坂

西坂城新坂とも書里此所乃民より餅をうけ  
還乃もの飢依救いふよりへわ新坂のより餅と  
て其名あねあるなり或は尊乃粉とまりへて蒸餅と  
し。區乃粉小坂城かてある旅人やすむ人より此蔵  
餅をわとまりて其尊餅といふなり此志は徳越  
茨林を賣て老芋と得る人よりあり者なりや  
婆叫焦号婦喚烘傳人鄙食在途中憑誰救得西山餓

馬首吹來餅餅風

中泉

見付濱松乃向中泉といふ所を。息馬乃多き所  
にて。越獵に終りて地をたて大將國とてとた放  
鷹せよ粉給してありしを給て傳佐小作りに  
芒碭雲一去鴈鴛空相呼といふい打備す人といふ思  
ふやハ駿遠二列いよも中將殿乃を給ふ國  
たれし封建乃むじうと今にあつとらゆか  
春葱冬狩跡猶遺霜露凄々野草衰鴻鴈自來還自去  
更無人放決雲見

池田

羨濃乃青墓アヲカミ。遠江の池田イケダ。駿河の手越テグシ。いしむこ。長者並  
 君ありて。じり。是は遂ツギ。北武士キタシ。將薄セウハク。乃女メ。子コ。鞍馬アシノ。谷門  
 にはる。此千金チチン。より。いしむ。買カ。と。し。り。も。れ。也。江口の津  
 よも。い。り。て。た。ら。ゆ。らん。矣。鴻トウ。天テン。臣シ。乃。め。さ。れ。湯ユ。谷ヤ。も  
 け。池田イケダ。此宿ココ。の。い。し。す。め。い。て。らん。へ。か。る。世セ。に。く。し。む。り。  
 今イマ。い。は。若ニホ。天テン。終シマ。乃。は。の。東ヒガシ。北キタ。も。く。に。新ニホ。田タ。中ナカ。將セウ。乃。昔コト  
 け。る。れ。小コ。民ミン。と。の。わ。ら。り。は。半ハン。ら。そ。て。居イ。り。り。き。ふ。大ダイ。さ  
 終シマ。小コ。天テン。終シマ。と。て。二ニ。乃。は。あり。多タ。れ。り。新ニホ。田タ。中ナカ。將セウ。乃。昔コト  
 氏ウヂ。と。我ガ。負フ。て。乃。が。れ。き。ふ。時トキ。う。き。指サ。し。柳ヤナギ。れ。る。ら。け  
 子コ。以ヨ。死シ。越ワ。ら。れ。多タ。れ。と。復フタ。の。と。も。ら。り。江エ。都ト。う。將セウ。乃。昔コト  
 乃。は。り。や。濱ハマ。れ。ら。う。と。れ。が。細ホソ。淺アサ。淺アサ。小コ。天テン。終シマ。の。も。ら。り。と

とらうふめれ

池田イケダ驛エキ長本ナガホ倡家チヤウカ。鬼子オウジ。嬋セン。始シ。天下テンカ。誇ホウ。腰ウサ。似ニ。楚ソ。王ワウ。宮キヤウ。裏リ。柳ヤナギ  
 面オモテ。如ニ。巫ウ。女メ。廟ウラ。前マエ。花ハナ。古コ。今イマ。不フ。盡シマ。洪コウ。河カ。水スイ。淵エン。瀬セ。相サウ。移イ。兩リウ。岸アン。沙シャ  
 治チ。乱ラン。興キョウ。止シ。非ヒ。我ガ。真マコト。征セイ。鞍アシノ。斬チ。越ワ。且カ。嘗カ。茶チヤ

今切

遠列エンリツ荒アラシ。莽マウ。乃ナ。濱ハマ。乃ナ。真マコト。の山ヤマ。五イハ。里リ。乃ナ。海ウミ。と。り。て。大  
 舟フネ。と。出デ。入ニ。り。し。う。き。山ヤマ。に。は。き。り。ぬ。陸リク。地チ。も。り。り。  
 中ナカ。比ヒ。山ヤマ。乃ナ。り。り。乃ナ。れ。具グ。た。ひ。と。く。ぬ。け。出デ。て。海ウミ。へ。入ニ  
 多タ。れ。其ソノ。治チ。か。く。の。と。く。海ウミ。と。り。て。今切イマキリ。と。名ナ。は。り。り。  
 より。古コ。老ラウ。い。ひ。は。り。たり。私シ。國クニ。へ。伊イ。特トク。諾ダク。伊イ。特トク。舞マユ。乃ナ。り。  
 と。給タマフ。ひ。大ダイ。已イ。貴キ。女メ。彦ヒコ。名ナ。の。は。り。り。け。り。と。い。へ。其ソノ。じ。と

いづれもきこ。とろろ乃華山を巨灵<sup>キョウレイ</sup>の壁<sup>カキ</sup>開けて水

をやとる事とゆるにや  
一葉<sup>イツエツ</sup>扁舟<sup>ヒエンシュウ</sup>寄<sup>ツキ</sup>旅<sup>リョ</sup>身<sup>ミ</sup>潮波<sup>シウハ</sup>通信<sup>ツウシン</sup>遠<sup>トウ</sup>別<sup>ベツ</sup>濱<sup>ヒン</sup>海山<sup>カイサン</sup>何<sup>ナニ</sup>借<sup>カ</sup>巨灵<sup>キョウレイ</sup>手<sup>テ</sup>  
我國<sup>ウラシマ</sup>元來<sup>ゲンライ</sup>造化<sup>サツジヤ</sup>神<sup>カミ</sup>

潮見坂

白須賀<sup>シラスカ</sup>より西<sup>ニ</sup>乃<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>一<sup>ツ</sup>乃<sup>ハ</sup>坂<sup>カ</sup>あり<sup>ニ</sup>大洋<sup>ダイヤウ</sup>眼前<sup>ガンゼン</sup>に

あれ。潮見坂と云はく余嘗詩紙作ると云  
波浪<sup>ナミ</sup>雲<sup>クモ</sup>天<sup>アメ</sup>俱<sup>トモ</sup>一<sup>ツ</sup>色<sup>シキ</sup>東南<sup>トウナン</sup>瀛海<sup>エイカイ</sup>更<sup>さら</sup>無<sup>な</sup>山<sup>ヤマ</sup>聖門<sup>セイモン</sup>有<sup>ア</sup>術<sup>ジュツ</sup>人<sup>ジン</sup>何<sup>ナニ</sup>敢<sup>セン</sup>  
潮見坂<sup>シウミザカ</sup>頭<sup>カビ</sup>停<sup>トウ</sup>馬<sup>バ</sup>看<sup>カン</sup>律<sup>リツ</sup>小<sup>コ</sup>か<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>快活<sup>クワイカツク</sup>乃<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>も  
山看<sup>ヤマミタス</sup>乃<sup>ハ</sup>韻<sup>イン</sup>世俗<sup>セキヨク</sup>の思<sup>オモヒ</sup>と<sup>ト</sup>く<sup>ク</sup>乃<sup>ハ</sup>通韻<sup>ツウイン</sup>を<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>へ<sup>ハ</sup>  
やとく切韻<sup>キツイン</sup>の勢<sup>セイ</sup>と<sup>ト</sup>れ<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>へ<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>らん<sup>ト</sup>三百<sup>サンヒャク</sup>篇<sup>ヘン</sup>楚<sup>ソ</sup>

人乃詞<sup>ヒトノコト</sup>の<sup>ハ</sup>悒<sup>ウツクシ</sup>韻<sup>イン</sup>の<sup>ハ</sup>た<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>聖<sup>セイ</sup>人<sup>ジン</sup>の<sup>ハ</sup>刪<sup>セン</sup>修<sup>シュ</sup>屈<sup>クツク</sup>  
宋<sup>ソウ</sup>の<sup>ハ</sup>文<sup>モン</sup>紙<sup>シ</sup>了<sup>リョウ</sup>つ<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>沉<sup>チン</sup>約<sup>ヤク</sup>江<sup>カウ</sup>老<sup>ラウ</sup>乃<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>一<sup>ツ</sup>き<sup>キ</sup>紙<sup>シ</sup>字<sup>ジ</sup>  
ひと<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>世<sup>セ</sup>間<sup>カン</sup>法<sup>ホウ</sup>布<sup>フ</sup>の<sup>ハ</sup>韻<sup>イン</sup>鏡<sup>キョウ</sup>よ<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>悒<sup>ウツクシ</sup>通<sup>ツウ</sup>乃<sup>ハ</sup>音<sup>オン</sup>紙<sup>シ</sup>專<sup>セン</sup>と  
一<sup>ツ</sup>洪武<sup>フウフ</sup>正<sup>テイ</sup>韻<sup>イン</sup>洪武<sup>フウフ</sup>韻<sup>イン</sup>府<sup>フ</sup>よ<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>申<sup>マウ</sup>此<sup>コノ</sup>の<sup>ハ</sup>韻<sup>イン</sup>  
を<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>我<sup>ガ</sup>  
に<sup>ハ</sup>同<sup>ドウ</sup>か<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>初<sup>シュ</sup>学<sup>ガク</sup>此<sup>コノ</sup>律<sup>リツ</sup>偶<sup>コウ</sup>と<sup>ト</sup>拘<sup>コウ</sup>る<sup>ハ</sup>  
者<sup>モノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>先<sup>セン</sup>も<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>後<sup>ゴ</sup>も<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>へ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>た<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>  
と<sup>ハ</sup>不<sup>フ</sup>律<sup>リツ</sup>よ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>わ<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>先<sup>セン</sup>律<sup>リツ</sup>法<sup>ホウ</sup>両<sup>リョウ</sup>と<sup>ト</sup>か<sup>ハ</sup>へ<sup>ハ</sup>一<sup>ツ</sup>絶<sup>ケツ</sup>  
句<sup>ク</sup>紙<sup>シ</sup>字<sup>ジ</sup>ひと<sup>ハ</sup>わ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>先<sup>セン</sup>八<sup>ハツ</sup>句<sup>ク</sup>紙<sup>シ</sup>法<sup>ホウ</sup>か<sup>ハ</sup>へ<sup>ハ</sup>一<sup>ツ</sup>意<sup>イ</sup>い<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
風<sup>フウ</sup>言<sup>ゴン</sup>か<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>それ<sup>ハ</sup>古<sup>コ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>句<sup>ク</sup>い<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>情<sup>セイ</sup>深<sup>シン</sup>う<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>  
絶<sup>ケツ</sup>の<sup>ハ</sup>律<sup>リツ</sup>よ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>是<sup>コノ</sup>詩<sup>シ</sup>も<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>捷<sup>テイ</sup>法<sup>ホウ</sup>なり<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>か<sup>ハ</sup>へ<sup>ハ</sup>一<sup>ツ</sup>

かろりきほらとにせけふもたかりて耳  
とくちるはれ

天地豈識幾層瀾舒卷古方寸端滿自不遮潮見坂  
大鵬飛盡水漫々

参河國

志が見坂より二河乃ありに幾多の溝あり是をん  
遠江三河乃境ありといふはくや菅野の真道く史と  
見ゆりしに持統天皇三河國より行幸ありと志がせ  
れといははき乃郡といふ道の村置といふは  
真道を先仁祖武乃時をれ世久あして志がく  
る略して書りてせれやに惜

先王若要慰民生定有壺漿箪食迎遺恨翠華巡狩跡  
未聞行在頓宮名

吉田

江戸より来りて乃向よ大橋回あるは武苑の六卿三河  
乃吉田矣矯近江乃勢多ありいゆるは矢橋のく大橋ま  
と洪水にりて絶えり衣あり此は新小板と  
るりもふ少や爰に之誰く周も又う之害紙やめて  
留候う一編紙傳ふしや  
行々何日窮相送數別風馬過曉霜上龍横道路中川  
流無晝夜人物有西東一枕還郷夢家書久不通

長澤



宮簀媛ミヤスヒメの家に宿し海をまはりて比社乃神といひ  
りるわ。然る世俗乃説に熱田成蓬萊といふるれん。揚  
是妃と祭といふ。されし宋大史より東乃曲むと國を揚  
妃の祠ありといひ。是社のこゝに巫覡乃託宣ツクセウ世間  
此傳説ハたれもやうにわかれりるかやうに

東征功就凱旋時宿所曾徵官簀姫誰道馬嵬坡下鬼  
一朝來此立冥祠

稗名

熱田より海路七里渡りて伴勢國稗名いひ。此  
む一清見原天皇吉野より潛幸あつり。時皇后七伴  
るいへ海ひて。天皇は此所より義濃國不破園に赴を

終ひ。皇后を此地に海を流す。天皇大伴乃玉子  
と位成あつり。不破乃園にて東西の兵お戦ひに  
天皇利成たせし海ひて。位より勢給ふ。天武天皇  
是るより皇后を。天智天皇は娘大伴玉子と連枝し  
て海を流す。女を以て後に持統天皇とす。此をわ  
き名にたせし。此宮今こゝに此の所より流す。此  
よとくとも。此れ子者あり。又聖武天皇時藤原廣  
繼西園より野をたせし。此の所より流す。官軍と法か  
り。退治し終ふ。天皇は伴勢大伴をよ。此信海より  
て。新ら勢給ひ。それよりは幸名。渡邊ありて。義深  
にかより。近は路依る。還幸なり。わぬ。此園は廣

熱田記行

三十三



継伏誥のり捷言伏地て奉り高野日本紀後日本  
紀代見ゆりしるは新室の志るし言新

曾聞二帝此德真憾在吾邦未見書今問先蹤人不識  
誰廣風土補方輿

石薬師

四日市場より西に茶師乃石像わ新所と  
石薬師と名づく余をよる焉わし厚う浮國紙  
かまひ五福紙まきみ退凡下乗をよて仏菩薩を  
石にて造る所くわいおほきれと碑塔墓誌石表  
ありき一とあり流流乃二寺の院は源空沙門の行狀  
なりとて苔藓乃同よ文字終りあつてゆり流了

今乃人の祖出んは同小曾高の名紙といと志るは昔紙  
追の公る紙よりおろきするを諸別誌新をあり  
きんゆりしに寺院仏閣をうる新小民村里に毛阿  
まもゆるとととと庠序学費とてい名紙といと中紙  
備してむしり礎もなり延天乃比まて都よ  
大学紙建て國郡よ國学紙きて二仲乃釋奠  
紙よりよははり時ふかすむ紙けるるや是紙の  
学校と近紙よて誰にてと得業の人居ゆりしに  
は四年手より僧法師の住所乃やうにすわね  
浮國五福乃と紙に石紙まきしるしと一福首龜  
跡紙建より蕃神點胡乃為小堂紙造らむしよ

其の精<sup>セ</sup>彦<sup>カ</sup>が<sup>シラフ</sup>塾<sup>シラフ</sup>に<sup>カ</sup>せよ<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>わ<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>腹<sup>カ</sup>を  
あ<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>お<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>入<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>穴<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>す<sup>カ</sup>や  
一<sup>カ</sup>地<sup>カ</sup>衆<sup>カ</sup>生<sup>カ</sup>兼<sup>カ</sup>願<sup>カ</sup>息<sup>カ</sup>温<sup>カ</sup>公<sup>カ</sup>曾<sup>カ</sup>比<sup>カ</sup>藥<sup>カ</sup>師<sup>カ</sup>尊<sup>カ</sup>若<sup>カ</sup>磨<sup>カ</sup>此<sup>カ</sup>石<sup>カ</sup>作<sup>カ</sup>鍼<sup>カ</sup>去<sup>カ</sup>  
甘草<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>參<sup>カ</sup>不<sup>カ</sup>定<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>

庄野

石<sup>カ</sup>葉<sup>カ</sup>師<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>西<sup>カ</sup>龜<sup>カ</sup>山<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>東<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>庄<sup>カ</sup>野<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>比<sup>カ</sup>所<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>民<sup>カ</sup>家<sup>カ</sup>  
火<sup>カ</sup>米<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>比<sup>カ</sup>依<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>毎<sup>カ</sup>戸<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>其<sup>カ</sup>  
依<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>比<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>櫃<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>比<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>痛<sup>カ</sup>  
子<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>皆<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>包<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>縛<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>旅<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>買<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>家<sup>カ</sup>  
は<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>す<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>年<sup>カ</sup>余<sup>カ</sup>僮<sup>カ</sup>僕<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>け<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>来<sup>カ</sup>  
り<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>昔<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>伏<sup>カ</sup>波<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>意<sup>カ</sup>茨<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>車<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>伯<sup>カ</sup>顔<sup>カ</sup>

其<sup>カ</sup>梅<sup>カ</sup>花<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>擔<sup>カ</sup>頭<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>挿<sup>カ</sup>み<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>今<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>依<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>取<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>  
と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>急<sup>カ</sup>じ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>わ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>彼<sup>カ</sup>法<sup>カ</sup>道<sup>カ</sup>仙<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>越<sup>カ</sup>智<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>  
地<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>依<sup>カ</sup>米<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>花<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>思<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>出<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>今<sup>カ</sup>  
又<sup>カ</sup>却<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>け<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>包<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>我<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>兒<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>効<sup>カ</sup>矣<sup>カ</sup>  
な<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>

唐人<sup>カ</sup>詩<sup>カ</sup>白<sup>カ</sup>漢<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>書<sup>カ</sup>記<sup>カ</sup>得<sup>カ</sup>燒<sup>カ</sup>耕<sup>カ</sup>火<sup>カ</sup>米<sup>カ</sup>會<sup>カ</sup>可<sup>カ</sup>慰<sup>カ</sup>孩<sup>カ</sup>提<sup>カ</sup>未<sup>カ</sup>口<sup>カ</sup>實<sup>カ</sup>  
終<sup>カ</sup>朝<sup>カ</sup>咀<sup>カ</sup>嚼<sup>カ</sup>齒<sup>カ</sup>牙<sup>カ</sup>餘<sup>カ</sup>

鈴鹿

関<sup>カ</sup>地<sup>カ</sup>荒<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>於<sup>カ</sup>鹿<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>坂<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>下<sup>カ</sup>浦<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>河<sup>カ</sup>あり<sup>カ</sup>八十<sup>カ</sup>  
洲<sup>カ</sup>此<sup>カ</sup>河<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>なり<sup>カ</sup>爰<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>あり<sup>カ</sup>海<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>明<sup>カ</sup>津<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>天<sup>カ</sup>武<sup>カ</sup>天<sup>カ</sup>皇<sup>カ</sup>  
乃<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>逢<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>海<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>不<sup>カ</sup>老<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>世<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>婦<sup>カ</sup>人<sup>カ</sup>小<sup>カ</sup>子<sup>カ</sup>

乃に越め給に麻沙前の物波とやらしはたほつ  
るし所よりありし鬼谷新田丸討つてくつらとふ  
是も又たかつ所。むしうら山賊あり所といひ  
けしぬまのそねは鬼とていふや。伴勢三良と給麻  
比山賊ありまねとあし

九折盤紆鈴鹿坡行人征馬恐蹉跎ルサタラタ抵今四海恩風遍

八十瀬河無白波

土山

土山といへど山なきなり。鈴鹿より西乃坂下まで二  
里のりあり。釋話毛傳るとい石山城と云ふ山といふ  
お山城といふの山といふしるす城なりといふ

行李東西久旅居風光日夜憶オモフ柳間梅花ニツク擊馬土山上。  
知是崔嵬知是岨シヨカ

水口

去歲八月四日大相國二條乃御所を出陣ありて翌日  
け所より着せ給ふ其日より打續き雨ありきれ。三日  
還るまじく予多病。夜更寝す。法前子余を侍  
りし時學而乃篇をよめし仰きれ。蹠ヒツキひく足ん  
るりしに能竭其力能致其身とわぬ所とていふ  
清讀ありて能といふ字に能ははくをいふなり。あは  
さりにてきて忠孝をもちか。親よる力つと。君  
はまを成しといふは能といはむるはむるといふ。評

論あねるをーと仰き侍り。余もわ乃趙苞う故る紙引て。昔もわーと兵とわされうてす紙は請と志げり侍り

愛生從子親義立自君臣侍讀古年雨淚痕今日人

草津

石部より草津よへるに馬よりさへ奴隷に乃るるを。近江玉八中より相撲乃者わかくて。石邊草津出合相撲紙と侍ふ石邊かた時あり草津の時にわりとつてつてのたると人ののら子ーか。岩麻の蹶速野見宿祢より初て那都羅善雄力ひくへ。後野河津にいれりて其名をへ

侍ふ。年中行事にて相撲の節會として内裏にて行くとせ給ふあり。やしく物よりわたりなむ勢田よありぬ。お權乃詩代化まといのいひれ

氣似鳥先出野堀力如鼈背戴方壺竜紋絶蹟今猶古聞否少年相撲徒

勢田

勢田を古戰場あり兼之乃後よ、皇興の敗績して外に影塵ありしる紙あり。孝謙乃御寓よ、内相う奪らんとして紙よ橋路く高鳴して亡くす紙よ紙よ。是のよあり日本記をよんれ天智帝崩御ありしとして紙對大弟を沙門とる。せ給ひて若野

山に入勢あり。大友皇子乃時を大政大臣にしてあ  
し。天智乃讓つて御うけられし。大友を野々川  
に出く和別停焚せしむ。濃別不破圍して尾別  
の兵を正あはぬ。皇子乃兵と我勝て近江に  
逃田す。麩のうらたれよ皇子を川に橋た  
てよ陣取らして合戦ありし。大友乃兵を  
小のりして皇子救わして作中に入て  
伯林維經乃師代ふあり。大友は清見原  
天皇是あり。王申乃乱といはし時乃事  
代りあり。懐風藻を勝武年中に編集せし  
り。其中に大友皇子天智帝乃長子なり  
と。王申乃後小天皇遂す。て薨しぬと  
し。り。舍人親王の皇考王父なりとあり  
し。代

婉て南董の筆代りし。かひ多ん。懐風藻ハ親王乃  
時とよ事本意あり。これ其の事代りし。ゆ  
にや。近江大明小墾王の連文代りし。ゆ  
して。白帽子を戴ふれと異域同日乃物語  
ありし。り。勝敗興亡憂更憂。千年人事落  
基楸。積骸為帯血為水。都入勢多橋下流

比叡山

湖水乃多し。り比叡山。其身ては。はるや人の和韻と  
ゆ。待と。爰に。云。典公昔作四明遊。能  
使遺文後世留。枚洞窟深地。蟠動竹生  
嶋。泛浮萍。幽三朝烟。草君王殿。一夜  
風波内相。舟只有舊時。今不改。山雲湖

影日悠々。一二を孫興公う天台山の賦のるは用ひ。三四  
ハヤク覺え乃景はいい。五六を懐古の感慨をこれ尾白  
景情を合せていひ詩と化す。時を余る。二百七  
ハヤクありきん。久しく公勢乃勝あつて吟詠も  
おる。とち。古人三日乃回。台を台。こは。い。と。そ  
り。よ。浦。て。余。う。葛。礎。塵。積。て。と。る。魚。お。と。と。と。  
口中乃むらぶ。そ。詞林。よ。浦。い。い。む。志。の。れ。も。  
江山のぬすけ。を。あ。れ。う。と。た。り。ふ。ん。の。ゆ。く。い。  
す。せ。て。此。の。詩。と。白。海。て。い。く。若。于。首。の。海。  
無

肥嶽從來守紫宸。先主立作國家鎮。雲波五色三津浦。

星斗千年七社神。湖水朦朧空得月。山櫻寂寞自過春。  
好風羨景非無意。吾亦東西南北人。

大津

大津をすはて相坂小い。る。肩輿。う。わ。清。み。る。海。  
初。級。入。り。て。

九陌大津隈。念々繁往來。二亭群馬聚。十里遠帆開。鮎  
上。任。公。釣。鱸。傳。張。翰。孟。潺。湲。相。坂。水。烏。帽。掃。塵。埃。

元和二年十一月日

羅浮子

寬永十五年仲秋吉日

二條通觀音町

風月宗智刊行

右丙辰紀行一冊者羅山子道春之作也  
 近一友人袖之來而與僕雖微賜其風流  
 乃重於金珠僕愛之也深矣喜之也厚矣錄記  
 冊末供後之失忘云

元祿三年八月既望

主人記

2

